北海道地方

名前

問1　北海道の北部に位置しながら、上川盆地で稲作が盛んに行われている理由について、この地域の気候の特性から説明したものとして最も適切なものはどれですか。（2016年 群馬県公立入試 類似）

1. 一年を通じて暖流の影響を強く受けるため、冬でも雪が降らず温暖な気候が続くため
2. 内陸のため夏は比較的気温が上がり、稲の成長に必要な熱が得られる内陸性気候であるため
3. 標高が高いため、夏でも涼しく害虫の被害を受けにくいという気候特性を持っているため
4. 季節風の影響で一年中雨が多く、灌漑施設に頼らずに水田に水を引くことができるため

問2　北海道の知床半島のすぐ東側に位置し、択捉島、色丹島、歯舞群島とともに、日本固有の領土でありながら現在はロシアによって法的根拠なく占拠されている島を何というか。（2019年 岡山県公立入試 類似）

1. 国後島
2. 歯舞群島
3. 色丹島
4. 択捉島

問3　北海道の人口分布の変遷について述べた次の文のうち、1950年代後半から現在にかけての状況を正しく説明しているものはどれですか。統計上、札幌市の人口は1958年の約48万人から、2018年には約195万人へと、60年間で約4倍に増加しています。（2021年 宮城県公立入試 類似）

1. 道内各都市でバランスよく開発が進んだため、札幌市以外の旭川市や函館市でも、札幌市と同等のペースで人口が増加し続けている。
2. 1970年代以降、札幌市ではドーナツ化現象による人口減少が激しくなり、現在は1950年代当時の人口規模を下回っている。
3. 札幌市への一極集中が進み、道内の他の地域から人口が流入することで、北海道全体の人口に占める札幌市の割合が大幅に上昇した。
4. 札幌市の人口は増加したものの、北海道全体の人口増加率がそれを上回っているため、道内における札幌市の人口シェアは低下傾向にある。

問4　北海道の倶知安町やニセコ町における外国人宿泊客数の統計では、１２月から３月にかけての冬季の客数が突出して多く、他の月との格差が非常に大きいという特徴が見られます。このような宿泊客の動向が生まれている地理的な背景として、最も適切な説明はどれですか。（2025年 群馬県公立入試 類似）

1. 梅雨のない気候を求めて、アジア圏から多くの避暑客が長期滞在するため
2. 流氷を観察するための砕氷船観光が、外国人観光客の最大の目的となっているため
3. 夏休みの期間を利用した大規模な農業体験が外国人家族連れに普及しているため
4. 世界屈指の雪質を求めて海外から多くのスキー・スノーボード客が訪れるため

問5　北海道北部の利尻島・礼文島において、地域の産業を持続させるために行われている取り組みの背景と内容として、最も適切な説明はどれですか。（2019年 東京都公立入試 類似）

1. 昆布の需要減少に対応するため、漁場をすべてレタスなどの大規模な野菜工場に転換する計画が進んでいる。
2. 高齢化による労働力不足を補うため、昆布養殖や漁業の技術を伝える後継者の育成・支援が行われている。
3. 観光客の減少を食い止めるため、閉山した金山の坑道を再活用したテーマパークの建設が進んでいる。
4. 土壌の性質を改善することで、生産額が減少したサトウキビに代わる新たな特産品の開発が進んでいる。

問6　1997年に施行された「アイヌ文化の振興並びにアイヌの伝統等に関する知識の普及及び啓発に関する法律（アイヌ文化振興法）」が、それ以前の政策から大きく転換した点について説明した文として、最も適切なものはどれですか。（2023年 長野県公立入試 類似）

1. アイヌの人々に対して金銭的な補償を行うことで、すべての歴史的課題を解決する方針に転換した。
2. アイヌの人々の居住地を北海道に限定し、伝統的な狩猟や漁業の権利のみを保障する方針に転換した。
3. アイヌの人々を独自の文化を持つ集団として認め、伝統や言語の振興を支援する方針に転換した。
4. アイヌの人々を日本人に同化させることを目的とし、日本語教育を義務づける方針に転換した。

問7　1960年から2010年までの50年間で、札幌市の人口は約62万人から約191万人へと3倍以上に急増しました。北海道全体の人口が1950年の約430万人から2010年の約551万人へと緩やかな推移を見せる中で、このような札幌市の人口動態が北海道全体に与えている状況として最も適切なものはどれですか。（2016年 群馬県公立入試 類似）

1. 道内人口に占める札幌市の割合が一貫して上昇し、札幌市への一極集中が進んでいる。
2. 北海道全体の人口が減少局面に入ったことで、札幌市の人口も2010年に向けて激減した。
3. 道内の各都市が札幌市と同様のペースで成長したため、札幌市の人口占有率は低下している。
4. 札幌市の人口増加率よりも北海道全体の人口増加率の方が高く、人口の分散が起きている。

問8　夏の北海道東部の太平洋沿岸では、濃霧（海霧）が発生しやすいため、8月の日照時間が約127時間にとどまる釧路のように、札幌（約171時間）と比較して日差しが遮られる傾向があります。この濃霧を発生させる要因となる、北海道の東側を南下する寒流の名称を次の中から選びなさい。（2021年 茨城県公立入試 類似）

1. 対馬海流
2. 日本海流（黒潮）
3. 千島海流（親潮）
4. リマン海流

問9　北海道のオホーツク海沿岸で見られる流氷と、その地域への影響について説明したものとして、最も適切なものはどれですか。（2018年 山形県公立入試 類似）

1. 暖流の影響で海水が蒸発して氷になったもので、夏の冷害を引き起こす原因となっている。
2. シベリア沿岸で生まれた氷が南下してくるもので、冬の重要な観光資源として活用されている。
3. 太平洋側から北上してくる大規模な氷山で、冬の間の船舶の往来をすべて止めている。
4. 日本海の雪が海に流れ出て固まったもので、主に水田の灌漑用水として利用されている。

問10　東京都から各道県への旅客輸送に関する統計において、ある道県は鉄道の利用者が約19万人であるのに対し、航空機の利用者が約627万人と突出して多くなっています。この統計が示す道県の名称と、航空機の利用割合が極めて高い理由の組み合わせとして最も適切なものを次から選びなさい。（2022年 栃木県公立入試 類似）

1. 道県名は大阪府であり、ビジネス客の利便性を高めるために航空路線の便数が鉄道の運行本数を上回っているから
2. 道県名は北海道であり、東京都からの移動距離が長いため、所要時間の短い航空機が優先的に選択されているから。
3. 道県名は新潟県であり、山岳地帯を通過する鉄道よりも、直線的に移動できる航空機の方が効率が良いから。
4. 道県名は北海道であり、青函トンネルが貨物専用となっており、旅客が鉄道で海を渡ることができないから。

問11　北海道の北東部に位置する海域で見られる流氷は、冬季の重要な観光資源となっています。この地域における流氷観光の具体的な内容として、最も適切なものはどれですか。（2018年 山形県公立入試 類似）

1. 流氷の上を歩いて北方領土まで渡り、現地の歴史を学習するツアーに参加する。
2. 砕氷船と呼ばれる特殊な船に乗り、海面の氷を割りながら進む様子を間近で見学する。
3. 流氷を溶かして作った真水を大規模なパイプラインで本州へ送る施設を見学する。
4. 暖流に乗って流氷とともにやってくるカツオやマグロなどの大型魚を一本釣りで狙う。

答え合わせ・解説

問1	答え 2 内陸のため夏は比較的気温が上がり、稲の成長に必要な熱が得られる内陸性気候であるため	上川盆地は海から離れた内陸に位置しているため、夏は海沿いの地域に比べて気温が上昇しやすい「内陸性気候」の性質を持っています。稲の結実には夏の一定以上の高温が必要であるため、この気候特性が北海道での稲作を可能にしています。一方で、冬は非常に寒さが厳しく、積雪量が多いことも特徴の一つです。
問2	答え 1 国後島	国後島は、北海道の知床半島の東側に位置する島です。択捉島、色丹島、歯舞群島と合わせて北方領土と呼ばれます。北方領土の中で択捉島に次いで2番目に大きな面積を持ち、根室半島の先に位置する歯舞群島や色丹島などとともに、一度も外国の領土になったことがない日本固有の領土ですが、第二次世界大戦の終結直後に当時のソ連によって占拠されました。
問3	答え 3 札幌市への一極集中が進み、道内の他の地域から人口が流入することで、北海道全体の人口に占める札幌市の割合が大幅に上昇した。	北海道では、県庁所在地である札幌市に行政・経済・文化の諸機能が集中する「一極集中」の傾向が顕著です。1950年代後半以降、石炭産業の衰退などによって道内他地域の人口が減少する一方で、サービス業や商業が集積する札幌市には仕事や利便性を求めて人々が集まりました。この結果、北海道全体の人口が減少に転じてからも、札幌市およびその周辺都市圏の人口が占める割合は高まり続けています。
問4	答え 4 世界屈指の雪質を求めて海外から多くのスキー・スノーボード客が訪れるため	ニセコ周辺は「パウダースノー」と呼ばれる質の高い雪が海外で高く評価されており、オーストラリアを中心とした海外からの観光客が冬のレジャーを目的に集中的に訪れます。統計データにおいて冬季の宿泊客が突出しているのは、この季節的なアクティビティが観光需要の核心となっているためです。
問5	答え 2 高齢化による労働力不足を補うため、昆布養殖や漁業の技術を伝える後継者の育成・支援が行われている。	利尻・礼文の両島では、高品質な昆布養殖や漁業が主要な産業ですが、全国の離島と同様に人口減少と高齢化が深刻な課題となっています。そのため、地域の伝統的な生業と「利尻昆布」のブランドを守ることを目的として、移住者の受け入れや若手漁業者の技術習得をサポートする後継者育成支援に力が入れられています。地理的条件や自然環境を活かした産業構造を維持するための重要な施策です。
問6	答え 3 アイヌの人々を独自の文化を持つ集団として認め、伝統や言語の振興を支援する方針に転換した。	それまでの「北海道旧土人保護法」は、アイヌの人々を日本人の中に同化させることを目指した法律であり、アイヌ独自の文化や言語は否定される傾向にありました。アイヌ文化振興法の制定は、そうした同化政策から、多文化共生社会の実現に向けて、アイヌ独自の民族的誇りや文化的多様性を尊重する方針へと舵を切った重要な転換点となりました。
問7	答え 1 道内人口に占める札幌市の割合が一貫して上昇し、札幌市への一極集中が進んでいる。	北海道全体の人口が緩やかな伸び、あるいは横ばい傾向にあるのに対し、札幌市の人口は1960年から2010年の間に約3倍以上という極めて高い伸び率を記録しています。この結果、北海道の総人口に対する札幌市の人口が占める割合は上昇し続けており、特定の都市に人口や経済機能が集中する「一極集中」という地理的特徴が顕著になっています。
問8	答え 3 千島海流（親潮）	北海道の東側の太平洋岸には、北の千島列島方面から冷たい海水が流れてくる寒流の千島海流（親潮）が通っています。夏の湿った空気がこの冷たい海面によって冷やされることで水蒸気が凝結し、大規模な濃霧が発生します。これにより、釧路などの地域では夏の日照時間が短くなります。
問9	答え 2 シベリア沿岸で生まれた氷が南下してくるもので、冬の重要な観光資源として活用されている。	流氷はシベリア沿岸で発生し、海流に乗ってオホーツク海を南下して北海道の北東岸に到達します。かつては漁船の出港を妨げるなどの負の側面が強調されましたが、現在では砕氷船（ガリンコ号やオーロラ号）による観光や、流氷とともにやってくるクリオネなどの観察といった観光資源としての側面が重視されています。他の選択肢にある冷害の原因は主に夏の「やませ」などであり、流氷の性質とは異なります。
問10	答え 2 道県名は北海道であり、東京都からの移動距離が長いため、所要時間の短い航空機が優先的に選択されているから。	東京都から北海道への移動は、距離が非常に長く時間がかかるため、新幹線などの鉄道よりも高速な航空機が選ばれる傾向が顕著です。一般に、交通手段の選択においては「4時間の壁」と呼ばれる基準があり、鉄道（新幹線）での所要時間が4時間を超える場合、航空機のシェアが圧倒的に高くなります。新潟県や大阪府は東京都からの距離が比較的近く、鉄道（新幹線）の利用割合が高い地域であるため、提示された統計データには合致しません。
問11	答え 2 砕氷船と呼ばれる特殊な船に乗り、海面の氷を割りながら進む様子を間近で見学する。	網走や紋別などのオホーツク海沿岸の都市では、分厚い氷を砕きながら進むことができる「砕氷船」が運航されており、冬の北海道を代表する観光地となっています。流氷は寒冷な親潮（千島海流）の影響を受けて南下してくるものであり、暖流とは無関係です。また、流氷の上を歩いて国境を越えるような観光は行われていません。